

2015年5月26日

第2回 結核ゆかりの地ツアー
～ 新山手病院・保生の森 ～

目的：

- ① 2020年までに日本の結核低蔓延化をめざし、結核に対する親しみやすさや問題意識の向上。
- ② 結核の治療・対策の文化・歴史的資産の周知
- ③ 結核治療の歴史により世界（保健）文化遺産保護・登録を目指す活動への協力。

概要：

結核は、現在でも世界人口の1/3（20億人余）が感染して体内に結核菌が休眠状態にあると言われている最大の感染症で、WHOの推計では1年間に900万人が新たに発病し、150万人が死亡しています（2013年）。かつて日本でも結核は亡国病と呼ばれ、戦後間もない昭和25年頃までは1年に10万人以上が亡くなる日本の死亡原因の第1位でした。多くの文学者も結核にかかり療養所で生まれた作品も多く存在します。また日本の保健システムも結核治療・対策を通して整備されていきます。結核は様々な面で日本の近現代史に影響を与えました。

緑が豊かで空気が清らかな東村山市、清瀬市の周辺には、サナトリウム療法時代の結核患者専門の療養所が集中して建てられ、貴重な結核治療の文化・歴史を今に残しています。前回のツアーでは、結核研究所の持つ病理標本や資料、外気舎、東京病院などを中心に結核の歴史をめぐりました。今回のツアーでは、「東洋一の規模のサナトリウム」と呼ばれ、『となりのトトロ』のメイちゃんのお母さんが結核を患って入院した病院のモデルであるかつての「保生園」、現「新山手病院」に焦点をあてます

場所：新山手病院・保生の森

日程：2015年5月19日（火） 13：00～17：00

集合：グリーネスハイム新山手前

スケジュール（敬称略）

総合司会 田中慶司

開会挨拶 森 亨

第1部：散 策

新山手病院・保生園周辺散策： 案内とお話し 大場 昇

第2部： 講 演（グリーネスハイム新山手集会室）

挨拶 渋谷金太郎

1. 「保生園」での療養生活 小形清子
2. 「保生園」設立の背景、結核治療・対策の歴史と日本の健康政策への影響など 島尾忠男
3. 退院した結核患者の会「保生会」について 大場昇

コメント 朝日健二

4. 新山手病院での結核治療の現状 新山手病院院長 江里口正純 副院長 井上ゆづる
5. 「再起への道」(※) -肺機能訓練療法- 上映
挨拶 島尾忠男

(※) 島尾忠男先生は昭和30年4月から1年間留学していたスウェーデンで理学療法に遭遇し、帰路の船中で、いわば日本初のリハビリテーションの手引書となる本を翻訳し、「肺機能訓練法」と題して結核予防会から出版、日本に紹介。映画「再起への道」は、この肺機能訓練療法を実際に「保生園」で胸部手術の前後に応用していたドキュメンタリーで、島尾先生が企画編集に携われました。

<主催>

ストップ結核パートナーシップ日本

<協力>

結核予防会、新山手病院、グリーンネスハイム新山手、保生の森

<参加者>

73名(清瀬市長、議員10名、清瀬市5名、メディア1名、新山手6名、保生の森5名、保生会7名、グリーンネス15名、予防会5名、STBJ9名、その他10名)

